

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

## 事業名【新】花と緑のある暮らし推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111(内4113)

E-mail : c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,515千円 (前年度予算額： 0千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,515	0	0	0	0	0	0	0	3,515
決定額									

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

花きの需要は長期的には減少傾向にあり、特に若い世代の花離れが進んでいるため、将来的には消費が激減するおそれがある。このため、花に関心のない層に対し積極的に情報を発信し、花への親しみを醸成する必要がある。

また、花き文化は地域・社会の文化的基盤としての側面もあり、県民が花きの効用に対する理解を深め、日常的に花きを活用する機運を高めるため、積極的に花に触れる機会を提供する必要がある。

## (2) 事業内容

## ① 花き活用障壁の解消 2,376千円

SNS等を活用して花や緑に関する情報を発信するとともに、「花屋の敷居が高い」とか「花の選び方や飾り方がわからない」といった花きの購入をためらう障壁を解消するため、花屋での購入体験や自宅での花飾り体験の機会を提供する。

## ② 花に触れる実体験の提供(園芸福祉の推進) 1,139千円

平成14年度から県独自に認定している園芸福祉活動を指導・支援するボランティア「園芸福祉センター」を育成・フォローアップすることで、センターが中心となり高齢者、障がい者、子ども、地域住民など、さまざまな人々が園芸を通じて交流する活動を支援する。

### (3) 県負担・補助率の考え方

花きの文化の振興及び園芸福祉の推進は県の条例に位置付けられているため、県が主体となり実施することが妥当である。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	31	プロポーザル委員報償費
旅費	32	プロポーザル委員費用弁償及び園芸福祉活動調整に係る旅費
需用費	124	事務消耗品
役務費	12	通信運搬費
委託料	3,316	花き情報発信及び園芸福祉サポーター講座業務委託
合計	3,515	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

岐阜県花きの振興に関する条例（平成26年公布）

第9条 花きの文化の振興

第11条 園芸福祉の推進

### (2) 国・他県の状況

無

### (3) 後年度の財政負担

事業効果を検証し継続を検討する。

### (4) 事業主体及びその妥当性

花きの文化の振興及び園芸福祉の推進は県の条例に位置付けられているため、県が主体となり実施することが妥当である。

# 事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

■ 新規要求事業
□ 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

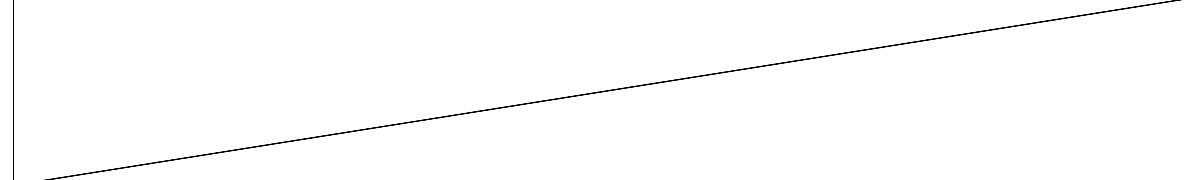
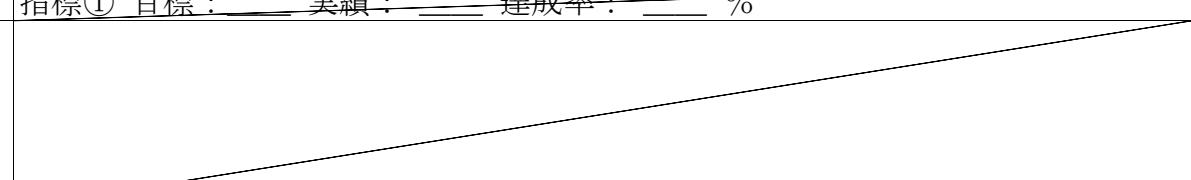
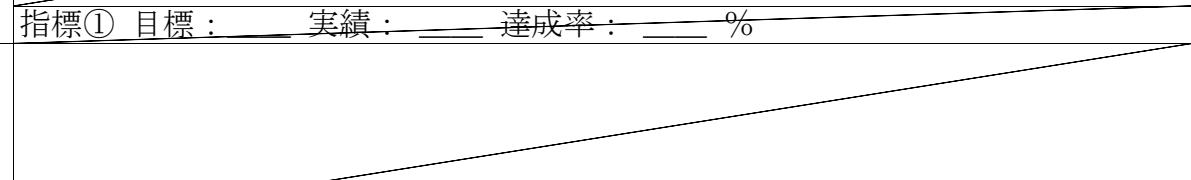
- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・若年層をはじめとする県民が花き文化に親しみ、暮らしに花を飾る習慣が波及する等、県民の花きの購入と利用機会が増える。
- ・園芸福祉を園芸福祉サポーターを中心とした住民活動として定着させる。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
①1世帯当たり花き関連品消費額	15,513円	15,513円	15,513円	17,000円	23,000円	

### ○指標を設定することができない場合の理由

### (これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 5 年 度	 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 6 年 度	 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

#### ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	花きの需要は減少傾向にあり、特に若い世代に対して花に親しむ機会を提供する必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	これまでの事業を見直し、SNSによる広報と園芸福祉活動への支援に重点化し効率的に事業を行う。

### (今後の課題)

#### ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

花と接点がない層に対して、継続的に機会を提供する必要がある。

### (次年度の方向性)

#### ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

引き続き、花き文化の振興に取り組む。

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	